

## 第1回航空輸出入通関・航空物流等合同WG 議事要旨

1. 日 時 : 平成24年6月21日(木) 10:00~12:00

2. 場 所 : ソリッドスクエア西館1階第2会議室

### 3. 議事の概要

#### (1) WG長及び副WG長の選出

- 航空輸出入通関WG及び航空物流等WGのWG長に、東京税関総務部石川総括システム企画調整官が選出された。

#### (2) 第1回航空/海上(合同)更改専門部会の結果報告

- 事務局(センター)から、第1回航空/海上(合同)更改専門部会の結果について、資料1に基づき報告を行った。

#### (3) 議題

##### ① 基本業務フローの確認

- 事務局(センター)から、次の事項について資料2に基づき説明の後、意見交換を行った。
  - ・ 入出港基本業務フローの概要及び入出港詳細業務フローの一部
  - ・ 輸出基本業務フローの概要及び輸出詳細業務フローの一部
  - ・ 輸入基本業務フローの概要及び輸入詳細業務フローの一部
  - ・ 機用品基本業務フローの概要

##### ② 基本業務フローの見直しについて

- 事務局(センター)から、次の事項について資料3に基づき説明の後、意見交換を行った。
  - ・ 輸入混載貨物の搬入
  - ・ 輸出貨物の搬出入
  - ・ 輸入混載貨物の2便目に対する搬入確認

##### ③ NACCS専用口座の廃止

- 事務局(センター)から、次の事項について資料4に基づき説明の後、意見交換を行った。
  - ・ 口座振替方式の現状
  - ・ 専用口座振替廃止のメリット
  - ・ オンライン業務・管理資料の廃止

④ ダイレクト・インターフェース（X. 25）の廃止

- 事務局（センター）から、次の事項について資料5に基づき説明の後、意見交換を行った。
  - ・ ダイレクト・インターフェースの概要図
  - ・ ダイレクト・インターフェース（X. 25）の廃止について

（4）意見交換の概要

- 資料3の一つ目の例について、現行、CAIで訂正する仕様であると理解しているが、この点が問題ということか。（委員）  
⇒貨物の運用実態を考慮した場合、現在の業務フローを見直す必要があるのではないかと考えており、積み重ね方式を採用することも検討してはどうかという提案である。
- NACCSにおける輸入貨物の管理は、便-MAWB-HAWBという単位が基本となっているが、貨物管理においてULD単位で処理されているケースがあると考えている（例えば、医薬品は保冷コンテナ）。元々ULD自体はユニーク化していることもあり、貨物管理の単位としてULDを導入することについて、是非、検討をいただきたい。（委員）  
⇒ULD単位での管理については、制度的な面からの検討も必要と考えるが、実態も含めて、今後、個別にヒアリングをさせて頂いた上で、検討することとしたい。（事務局）
- 見直し例として提案されている内容については、更改のタイミングでないと難しい変更であるという理解でよいか。（委員）  
⇒RVAの関係は現行でも可能かもしれないが、その他については現行システムで対応することは困難である。（事務局）
- 冒頭の説明の中で既に現状のフローで原則よい、ベースはOKとの前提で話が進んでいるが、少し視点を変えることも考えられるのではないかと。情報と物の一致（情物一致）について、そのやりかたが、かつては目視で行っていたところにバーコードが出現し、将来的にはRFIDといった状況にもある。提案の業務フローの視点は事務処理フローが中心で書かれているが、本当は物の流れを中心として見て、物をどのようにチェックしていくかというような観点でないと理想的な図にならない、貨物をコントロールするのは難しいのではないかと。例えば、ISOで検討が進められているサプライチェーンレイヤーといったものを踏まえた

検討、将来的にはこういった視点で全体を検討してもよいのではないか。(委員)  
⇒NACCSは行政手続きを中心として、それに関係する貨物情報が連携するシステムであり、確実な情報を後続に流していくという考え方は変わることはない  
と考える。しかし、国際物流はスピード化も進んでいるので、自動化、RFID  
利用等の物流管理といった観点からの情報管理についてもできるだけ対応し  
ていきたいと思っている。(事務局)

- 荷主は2008年からNACCSが利用できるようになって参加しているが、中々  
利用が進まない。NACCSをどのように使っていくか、どうしたら連続してい  
ろんなプレイヤーがNACCSの情報を共有して使っていけるのか、WGにおい  
て、荷主業務の見直しが検討課題に掲げられているが具体的な提案が出ていない。  
今後、WGにおいて是非議論を重ねていきたい。NACCSを使ってみて、NA  
CCSは官手続きが前提ということもあり、確定情報しか登録できない仕組みと  
なっているが、もっと不確定情報からアップデートしていくような仕組みも考え  
られるのではないか。(委員)

⇒荷主業務のあり方についてはご指摘のとおり議論が必要であると考えている。  
特に航空の世界で見た場合、荷主の業務について後続につなげていくことがで  
きるのか、業界の皆様方から様々なご意見を頂きながら検討を進めていきたい。  
現段階では、航空における荷主業務のあり方について、こういった形でという  
課題提示等が若干難しい状況にあるのかと思っている。

また、情報のあり方については、官手続きを中心に動いているシステムであ  
って、確定情報が中心にならざるを得ない面があるが、それ以外に、例えば、  
民情だけの世界であれば、民間の業務の流れに沿った形で情報の積み重ねを  
可能とするような仕組みも考えられるのか、実現性についても含めながら、ご  
意見をいただきたい。(事務局)

- 資料3の見直し例1について、提案の趣旨はわかるが、実態としては、貨物の  
搬入場所とNACCS設置場所に物理的な距離があり、都度貨物を当てること  
は難しいかもしれない。(委員)

### ③ NACCS専用口座の廃止

- 現在のリアルタイム口座利用者数はどの程度なのか。専用口座を廃止した場合、  
NACCS側の経費削減につながるのであれば、どの程度削減されるのか。また、  
経費削減の効果は利用者に反映されるのか。(委員)

⇒航空では既に100数社がリアルタイム口座振替を利用している。専用口座  
については140社前後である、数値的にはかなり拮抗していきっている状況  
にある。経費削減については、システム開発経費、稼働後における運用経費

等の削減が可能となると考えているが、現時点では具体的な数字を示すことは困難である。なお、システム全体の経費削減が実現出来れば、利用料金の低廉化は可能と考えられる。(事務局)

- 現在、専用口座しか扱っていない銀行については、リアルタイム口座振替に対応するためシステム開発費用が発生するという問題がある。ただし、専用口座からリアルタイム口座へという流れについては異論はなく、今後、協力しながら対応を図っていきたい。(委員)
- リアルタイム口座について、荷主の口座を利用する場合、預金残高の確認を行う(照会)ことができないという事情は理解できるが、通関業者としては残高不足が発生するのではないかという不安もある。(委員)  
⇒荷主口座の残高照会を通関業者が行うことは困難である。仮に残高不足となった場合でも、リアルタイム口座であれば即時に入金可能であり、許可までに時間を要することは少ないのではないか。(事務局)

#### (5) 今後のスケジュール

○ 第2回の航空合同WGの開催日は次のとおりとなった。

- ・ 第2回航空合同WG 平成24年7月26日(木) 14:00~17:00

(参考) 第1回航空輸出入通関・航空物流等合同WGの委員は別紙のとおり

以上